

スイス民間防衛
(Zivilverteidigungsbuch)

第二形態の戦争
(Die zweite Form des Krieges)
pp.224-272

1969

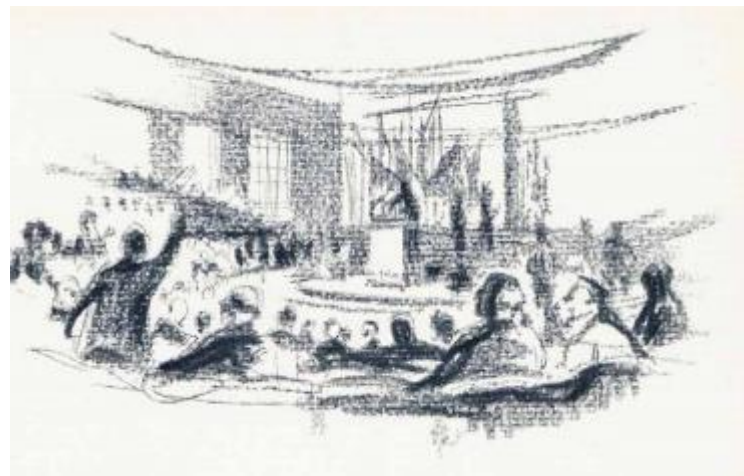
ドイツ語版からの翻訳

民間 防衛

第二形態の戦争

我々は、このような戦争が決して起こらないことを望んでいる。そのような戦争では、影響を受けた地域には言い知れない苦痛をもたらし、大規模な破壊が残される。それでは侵略者は利益を得られないだろう。侵略者には、自由な国民を支配する別の方法を選択する、正当な理由がある。

信頼を裏切る政党
敗北と平和主義
共感プロパガンダ
脅迫宣伝
経済戦争
スパイ行為
損害と転覆
政治的生活の恐怖と混乱
クーデターと介入



第二形態の戦争は、外形的には戦争には見えないが故に、危険である。その戦争は偽装されている。それは、見た目には平和な状態で、国内の改革の形をとって、進行する。始まりは小さくて、一見、無害に見えるが、その終結は戦争のように苦い。この種の戦争では、しかしながら、小国が大きな敵に対して、うまく対抗できる。決定的要因は物量ではなく、警戒と内部回復力である。

敵は同調者を求めている

侵略者の政府と党は、次の考慮事項に従う。

スイスに干渉する時である。数年で新世界の目標に近づけるだろう。スイスを併合する。戦争をせずに。小国のために核戦争のリスクを冒すのは見合わない。遅くとも10年以内に政権を奪取する組織をスイス国内に設立する。実証された原則に従って、事を進める。外部下部構造として、我々は政党を設立する。その党は大きくなくてよい。信頼できる意欲的なメンバーの小さなコアがあればよい。民主的選挙で勢力を拡大することは重要ではない。定められた時が来れば、テロと小規模クーデターで事が進む。党は合法的な見せかけを維持しなければならない。党の議会の議員たちを通して、民主主義を破壊する。理想的目標を掲げた、平和推進勢力を偽装する。彼らの政策は、世界平和と文化の発展と賃金の引上げと労働時間の短縮のための取り組みを約束する。高所得国では、大衆を引き付けるのは容易ではない。したがって、不満を持つ者を選ばなければならない。知識人と芸術家は囷と広告塔に相応しい。プロパガンダは労働者に対しては行わない。教授や労働者や牧師には、多数の労働者と同じ価値がある。実際の行動では、突撃部隊は信頼できる献身的な分子から組織される。もちろん、これらの人々は、時期尚早に党員に知られてはならない。

侵略者はスイスに特別代表を指名する。彼をアドルフ・ウーラーと呼ぼう。

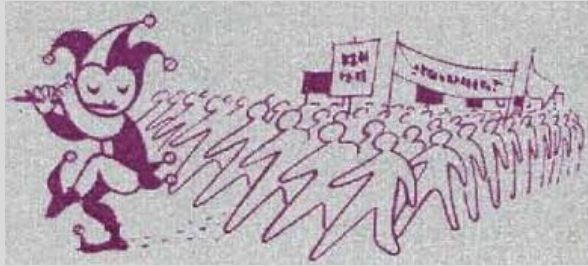
それは成功しない

金曜日の夕方、レストラン「アイントラハト（調和）」の盛大なホールで「進歩平和党」（FFP）の設立大会が開催された。党の目的は、世界平和のための活動に加え、特に社会的悲慘と戦いと、知識人や芸術家の支援だった。しかし、参加者たちのうち、最も聡明な者たちは、その意図を見抜いた。既存の欠点を排除するという趣旨の下で、目的は対外援助国における自由意志形成を弱めることであった。

警察の報告から：

FFPの設立と、構築中の細胞組織の関連性が示されている。細胞組織は、チェスクラブ「南街区」やフォークダンスクラブ「五月の歌手」や、「危険にさらされた若者救援組織」で見つкаっている。そのつながりは、ベルク通り15のエーリッヒ・キブリンガーに収束している。キブリンガーはその任務について高い能力があり、知的である。彼は政治の選挙に何回か立候補したが、当選したことはない。彼は何らかの不法行為のために軍隊に入れられた。

敵は同調者を求めている



アドルフ・ウェーラーから中央への報告

設立大会のおめでたい参加者の数で判断されたことで、党の重要性が過小評価されたことは、我々に有利なことだった。重要なことは、我々が、著名な科学者や、さらには神学者を獲得したことで、その結果として、暴力的野党を期待したサークルを中和できたことである。また、経済面でも、我々の行動は過小評価されている。いわゆる政治的成熟と数世紀にわたる平和という意識が、スイス自らの安全を揺がす、そして、自国に何も起きないのだという考えを捨てられないでいる。この条件下でも、細胞組織の構造は不変である。我々は、能力が高く、野心的で、節操のない、工作の責任者として適任な人物エーリッヒ・キブリンガーを見出した。彼は政治および軍事のキャリアで、何度も無視されてきたので、憎悪と憤りに満ちている。

それは成功しない

FPPは禁止されなかった。これは民主主義にとって悪いことであるとともに、当事者が禁止をしているために、地下活動の監視が困難になることによる。しかし、国民は慎重だった。

国民は、チェスクラブ「南街区」やフォークダンスクラブ「五月の歌手」や「危険にさらされた若者救援組織」や同様の細胞不審団体を監視した。行政機関や労働組合や当事者団体は、目立たないようにして、そのような人物が重要な地位に浸透しないようにした。

我々は、政治的見解にかかわらず、科学者や芸術家を尊重する。しかし、我々は、全体主義体制が政治と文化を区別しないことを知っている。彼らにとって、誰もが政治体制のための能力と表現方法で戦う義務を負っている。戦わなければ、処罰される。

人権に基づく国家は、科学者や芸術家に特定政治体制へのコミットメントを決して要求しない。人権に基づく国家は、国家と社会の腐敗を防止するのに、絶え間ない批判が必要であることを知っているからだ。

全体主義体制は異なる原則に基づいている。ここで、この体制はもともとより良いもの、あるいは唯一正しいものと考え、法律から派生し、必要とあらば強制力を以って、少数派によっても導入される。

我々は自国市民に対して、このような要求を認めない。ここでも、自由な国家は強硬策には、厳格でなければならない。

敵は我々の防衛力を弱体化しようとする



それはこう行われる：

現代の技術は、小国が対抗しようのない手段を超大国に与えている。軍事力の非対称性はますます明白になっている。この事実を考えればと、原子の時代における小国の立場に、なにほどの意味があるか真剣に考えなければならぬ。

設立大会のおめでたい参加者の数で判断されたことで、党の重要性が過小評価されたことは、我々に有利なことだった。重要なことは、我々が、著名な科学者や、さらには神学者を獲得したことで、その結果として、暴力的野党を期待したサークルを中和できたことである。また、経済面でも、我々の行動は過小評価されている。いわゆる政治的成熟と数世紀にわたる平和という意識が、スイス自らの安全を揺がす、そして、自国に何も起きないのだという考えを捨てられないでいる。この条件下でも、細胞組織の構造は不変である。我々は、能力が高く、野心的で、節操のない、工作の責任者として適任な人物エーリッヒ・キブリンガーを見出した。彼は政治および軍事のキャリアで、何度も無視されてきたので、憎悪と憤りに満ちている。

我々は守りを固める

これらの一連の考えは間違っている。

我々は自衛できる。戦争の歴史を見れば、戦時における大国の攻撃は多くの方法で制約されており、小国を攻撃する場合、その全力を振るうことはできない。小国が軍事的に瓦解するのは、小国が敵を過大評価するからだ。実際、大国は持てる軍事力のすべてを小国に対して使ったことはない。しかし、困惑することなく戦った小国は、自らの主張を通した。（フィンランド1939/1940、イスラエル1956。1967）。

現代兵器は敵にのみ利益をもたらすものではない。現代兵器の途方もない効果のために、彼らは緊張緩和せざるをえず、敵は我々のような小国に、過大な力の総力を振り向けられない。そして、今日のスイス軍は国の規模に比べて非常に数が多い。

自国を防衛できない小国は、支援と保護を約束する大国に頼らざるを得ない。大国は軍事的直接対決を怖れており、彼らが支援する小国が前線となり、いわゆる代理戦争の戦場となる。したがって、今日以上に、小国の回復力が重要となったことはない

敵は我々の防衛力を弱体化しようとする

敵は洗練された、途方もない理想を語る

核の死に反対

農民たち

諸君らの土地を
軍事基地にするな
反対

軍事費削減運動

このため: 公営住宅
すべての人に休日
未亡人と孤児と障害者の
年金の増額
労働時間短縮

賛成

より良い未来のための
行動委員会

平和協会
設立総会

平和のための兄弟による
講義

汝、殺すなかれ

聖書曰く「剣をさやに
納めなさい。剣を取る
者は皆、剣で滅びる。」

特に女性たちと
母親たちは、戦争が
起きないように
活動しなければならない。

我々は防衛的であり続ける

我々スイス人は平和を望み、戦争が起きないこと以上に望むことはない。残念ながら、この願いを実現することは我々だけに依存しているわけではない。ひとたび敵が我々の国を征服すると決めたら、敵は我々を攻撃する。我々が平和的に振る舞えば、敵は我々を放置すると思うのは、甘すぎるだろう。敵が我々を攻撃するのを阻止する唯一の手段は、その対価はあまりに高価だという洞察である。

憲法によれば、スイス軍の第一の目的は戦争を防ぎ平和を維持することである。あらゆる信仰を冷笑する敵なら、プロパガンダのために聖書の引用を悪用することを怖れない。我々は神に、暴力の試練を免れるように祈らなければならない。しかし、我々は強くあり続けることによって、我々役割を果たさなければならない。公営住宅、休日、公正な賃金のために、政党、団体、労働組合が生活条件の改善に取り組むことは正しいことであり、必要である。しかし、これらの要望と国防を二者択一にすることは正しくない。秩序ある国では、両方が必要である。我々の国が敵に占領され、搾取されれば、これ以上の公営住宅、より高い賃金、より長い休暇、より高い生活水準は失われる。

敵は我々を眠らせたい

ある国家元首の「政治的告白」より

我々は、勝利への道をたゆまず歩み続ける。我々は、敵を憎む。我々は容赦なく敵を破壊する。我々が彼らを信頼させることができたなら、それははるかに容易になる。共感プロパガンダは、我々の闘いの中で最も重要な武器の一つである。我々は、コンサートや歌や芸術や旅行の本で、彼らに文化をあふれさせる。我々は、美術展やスポーツフェスティバルを開催する。我々は、旅行代理店を開き、魅力的な観光パッケージを提供する。我々は、科学交流を維持し、できる限り友好的な関係を確立する。もちろん、我々は、わが国の国民が彼らの新聞や本や映画やラジオやテレビ番組に感染しないようにする。しかし、彼らは我々の文化に気に入るだろう。なぜなら、彼らは愚かで退廃的だからだ。我々は、彼らの文化に関心があると伝える。彼らは誇りを持ち、我々のアイデアをより無害だと受け止める。そして、彼らはすべてが政治とは何の関係もないと信じる。しかし、我々にとって唯一の目標は、最終的な勝利である。好むと好まざるとに関わらず、彼らは我々に共感を覚えるだろう。そして彼らは、我々が彼らの退廃した世界に、ゆっくりと、しかし着実に縄を引いていることに気づくことはないだろう。



我々の立場

民主主義は個人の意見を尊重する。新聞やラジオやテレビを通した世論形成の国家管理や、スイス国民と外国の文化的接触を国家が禁じることは、自由を維持する適切な手段ではない。政府の介入は、文化的または経済的関係の口実の下で、スパイ行為などの実証可能な犯罪行為を構成する行為が行われた場合にのみ可能である。我々は「思想犯罪」の概念を関知しないし、関知しようとも思わない。しかし、完全に無害な行動と処罰可能な犯罪を構成する行動の間には、工作人員を心理的な問題について徹底的に訓練している潜在的な敵が、我々の自信と私たち自身を主張する意志を目立たないように損なうために選択する非常に大きな領域があるこの分野を警戒し、個人の判断力を強化することは、とりわけ民間組織、政党、労働組合、文化のおよび愛国的な団体の務めである

敵は我々を眠らせたい

党大会前の
国家元首の
演説より：

... わが国には、すべての国々との平和共存と世界全体のより良い未来以外の目標はない。我々は生産を増強し、わが国のすべての国民に素晴らしい公営住宅とテレビと、可能なら自動車を保有させたい。我々はすべての国々と貿易し、それにより彼らは助け、生活様式を改善したいと考えている。私たちは、国民所得を武器に費やし、平和的な努力を追求する我々を手を握らず、わが国を脅かす国がまだ存在していることをだけを残念に思っている。

報道機関は、感動的な方法で子どもたちと遊び、農民と握手し、母親を抱きしめる国家元首の写真を見せ続ける。



我々は眠っていない

我々は、国家元首の演説のみならず、彼の「政治的告白」も読んだ。そうすることで、平和的行動の意味がわかる。

我々は現実を知っている。我々は、侵略的超大国が、国民の労働の大部分を軍事兵器に費やし、巨大な戦争マシンの維持していることを知っている。数万の戦車と航空機が待機している。無線誘導ミサイルは、核発射体で地球上のあらゆる地点に到達させられる。

数十万人の優秀な科学者が、戦争と人類の全滅のためだけに働いている。平和愛好国は繰り返し攻撃され、そのような超大国の権力態勢に組み込まれる。移動の自由は残忍な力で抑圧される。

数百万の人々が家の失った難民として、世界中を彷徨っている。数百万の人々、女性、子供が最悪の状況下で強制労働させられている。子供たちは戦争の訓練を受け、学齢期から若者組織で憎悪で育てられている。

敵は我々を威嚇しようとする



文化相 スポーツ責任者

オリンピックについての指示

- 1、敵が我々の政治体制の優越性を認識するように、スポーツマンが勝利することを、我々の指導者は求めている。
- 2、各スポーツマンは国民と党の目標を達成のための戦っていることを知らなければならない。
- 3、準備は全力で行う。
- 4、関与を避けるために、アマチュア規制は厳格に尊重しなければならない。選ばれた選手は、必要なすべてを提供する裕福な会社に雇われ、トレーニングの時間を確保する。
- 5、兵役に就くものは日々6時間の訓練時間を与えられる。それ以外は休める。
- 6、オリンピックに選ばれた学生は、2倍の給費を受け、試験を免除される。
- 7、金メダリストには勲章が与えられ、年金と特権が得られる。休暇が与えられる。
- 8、十分な成果を出せない場合は、スポーツ責任者は必要なく措置をとる。

私たちは敵に機会を与えない

スポーツは、大衆に影響を与える最も重要な手段の1つである。数万または数十万人の観客の前でのスポーツの勝利やトップパフォーマンス以上に印象を与えるものはほとんどない。そのような勝利の背景を心に留めていない人々は、本能的に運動能力と軍事力を関連付ける。スポーツの勝利は国家の勝利と認識される。勝利は爽快感と自己保証を創りだす。スポーツの敗北は、国家の敗北と見なされる。敗北は、臆病と劣等感を創りだし、それは軍事的敗北主義につながる可能性がある。侵略的超大国の指導者はこれをよく知っており、帝国主義の目標のために国際的なスポーツ競技、世界選手権、そしてオリンピックを利用している。そのような人々に、運動能力で印象付けられることはないだろう。

敵は我々を威嚇しようとする

宇宙での新しい勝利

Z国から、有人宇宙船の打ち上げに成功したとの報告がなされた。これは無期限に地球を周回できる。この衛星は、定期的に打ち上げられる補給ロケットにより、宇宙で補給を受けられる。これにより宇宙旅行のまったく新しい時代が拓かれる。想像を絶する可能性が広がっている。宇宙線の設計者であるボマー教授は記者会見で、この成果は平和目的のみのものであり、人類にとって偉大な進展であると述べた。多くの人々の手頃な価格で、宇宙旅行を提供できるのは、すぐのことではない。

Z国の首脳はレセプションで、「わが国は再び世界平和に偉大な貢献を行なった。しかし、これはただちに世界中での戦争準備を発見し、戦争をもたらす人々を容赦なく破壊することも可能だ」と述べた。

我々は感心しない

ここで、侵略的超大国の国家元首は、ニンジンとムチ、些細なことと威嚇の両方を私たちに与える。これは不確実性を生み出すことを目的としている。技術的なパフォーマンスは否定できない。また、たとえば、伝送システムや天気予報など、本質的な知識は、実用上平和目的を越えていく可能性がある。しかし、他の多くはブラフとカモフラージュである。実際には、これらの試みは主に戦争目的である。国民所得の多くがそのような実験に使用される。そして人々はより良い未来という童話の絵で関心を失う。

しかし、我々は、技術的な戦争装備の問題の力が、潜在的な敵が先行しているという印象を受ける。我々は柔軟に対処する必要がある。我々は事実即して判断する。我々は、そのような戦争手段を真剣に考えなければならないことを知っている。しかし、一方で我々は、対抗する勢力にも、有効な兵器があることを知っている。最も壮観な武器が常に戦争に最適なわけではない。

考慮すべきことがもう1つある。これらの兵器の効果は、最大の勢力でも、その使用から利益を得られないという、恐ろしいものである。したがって、これらの兵器は実際の戦争の兵器ではなく、心理戦での恫喝と脅迫の手段とみなすべきである。恫喝を受けない物が最も勝利する。

敵は我々の経済を弱体化させようとする

ある国家元首の「政治的告白」より：

わが国民は世界を支配する定めにある。我々はこの目標を達成するまで休まない。目標に反対する者は誰であれ、我々の敵である。直接的戦争で、この目標は達成できない。我々は革命戦争によって、目標を達成する。我々の政党がやがて、すべての国家の権力を掌握する。その前提条件は、革命的状況が創りだされていることである。

革命的状況は、不満がある場合にのみ創りだせる。不満がない場合は、不満を創りださなければならない。その最善の方法は、経済に影響を与えることである。ブームを作り、再び崩壊させなければならない。不満を創りだす最善の方法は失業である。我々の投資と我々の企業の海外拠点は、世界再編のための闘争のける前衛基地である。

敵は対応する。彼らにとって、経済は腐敗した上流階級の主な目的である。彼らは経済は政治とは無関係だと信じている。我々にとって、ビジネスは戦争の武器である。わが国民は、あらゆる経済的犠牲を払って、敵に損害を与え、我々の権力的地位を構築する用意はできている。

我々は、敵に原材料をどんな価格でも提供し、彼らの商品をどんな価格でも買うことを恐れない。小さく始めて大きく終わる。それに取り組んだら、すぐに利益を上げるビジネスを手放さない。

我々は敵を知っている。我々は敵を軽蔑する。彼らは我々の手の上にある。敵は退廃的である。彼らはもはや犠牲を払うことができず、自らの利己主義で滅びるだろう。我々に待つ時間はある。彼らはまだ我々に彼らを殺すために使う武器を与えてくる。

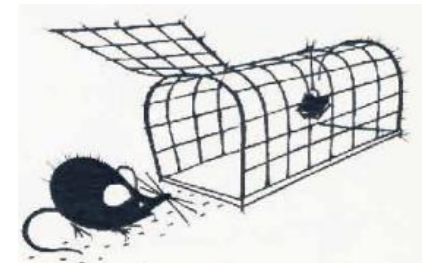
我々は彼を通して見る

総力戦の時代には、経済は一流の政治的および軍事的武器となった。スイスの場合、潜在的な敵が経済的武器を使用して攻撃の準備をするリスクがある。したがって、スイスは、特定の勢力および勢力グループとその物資調達と輸送を一方的に委ねない。連邦経済政策と個人の行動には明確な違いがある。

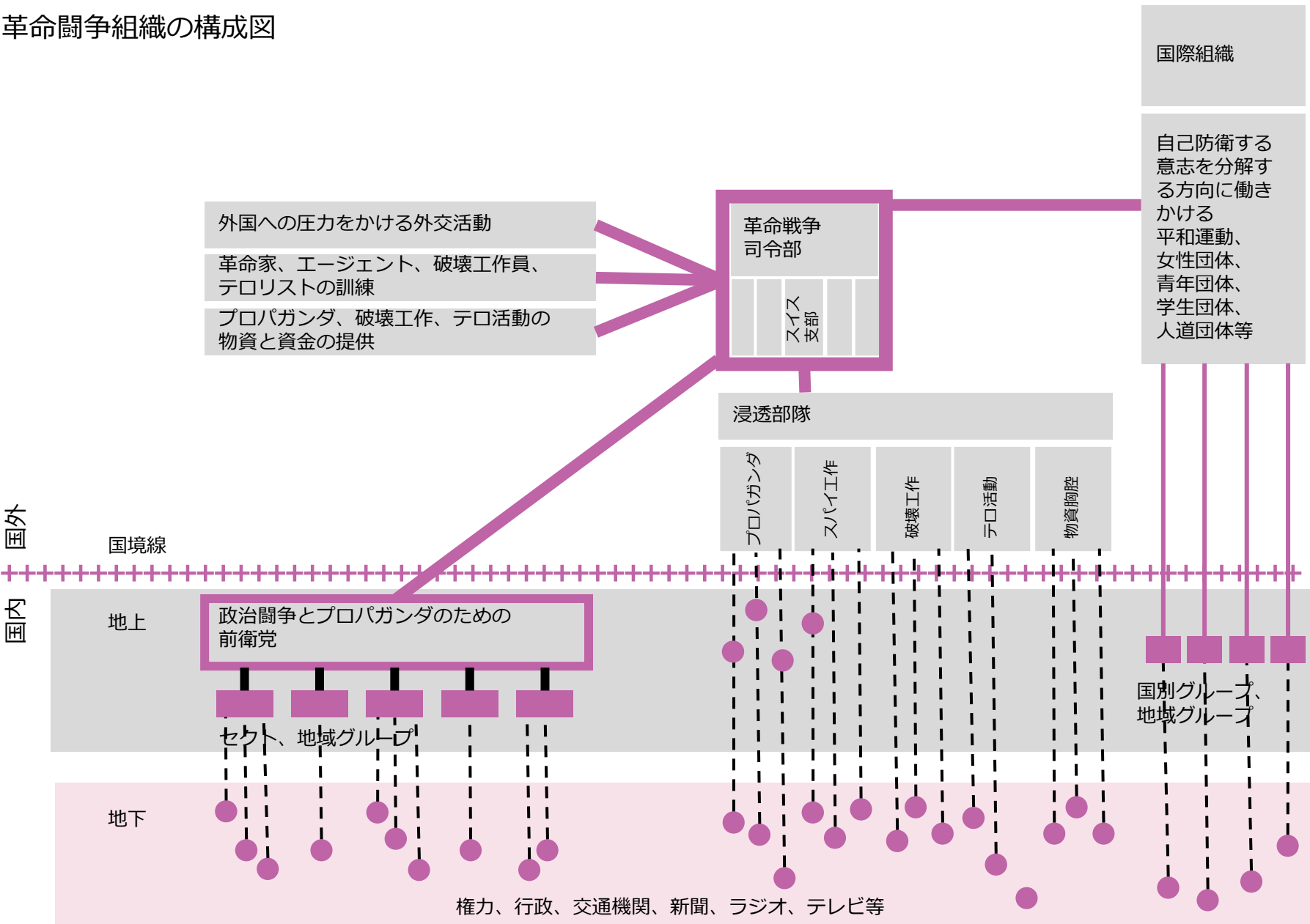
国家貿易政策は、国防の必要性和中立政策の要件に合わせなければならない。

政府は敵対的国家との貿易を管理し、特に軍事的に重要な特定の品目の輸出を禁止する。政府は濫用、特にスイスにある支店や外国貿易機関代表による政治活動に介入する。

個人の経済的行動は自分自身の責任の下にある。個人は、与えられた状況下で暴力的な政策を追求する勢力と、ビジネスをしたいかどうか、そしてどの程度までやりたいかを自分で決めなければならない。



革命闘争組織の構成図



敵は、同調者
を探そうとす
る。

敵は、我々の
軍事力を弱め
ようとする。

敵は、我々を
眠らせようと
する。

敵は、我々を
脅そうとする。

敵は、我々の
経済力を弱め
ようとする。

**これまで説明してきた第二形態の戦争
は、存在する。**

これは我々のまわりで毎日起きている。

**この出来事に我々がどう行動するかに、
我々の運命はかかっている。**

**これからは、未来を見ていこう。道は
分岐する。何が起きるか考えてみよう。**

どちらか

スイスは沈む

敵は、獲物の意志を破壊し始める
敵は、国民と政府の間に楔を打ち込む
敵は、攻撃する準備は整った
敵は、暴力を使う
敵は、スイスを包囲する
敵は、首に縄をつける
終焉

あるいは

スイスは自らを主張する

我々の意志は破壊されることはない
国民と政府は協力して抵抗する
我々は自らを守る準備ができている
叩き潰す
ハリネズミになる
国外からの命令を受けない
スイスはまだ自由である

敵の計画： 敵は獲物の意志を破壊し始める

敵とその同盟国は、わが国の政治に対して報道機関で過度の告発を行っている。敵はスイスに敵対的な政策をとっているため、スイスへの多くの重要な物資の引き渡しを突然遮断した。とりわけ、相手国がわが国を依存させることに成功していたため、スイスの原材料供給は現在、ほぼ完全にこの国に依存しています。敵に狙われた経済危機は迫り始めている。



誰もが知ってのとおり、経済的および政治的推移の結果として、当社は2000年9月30日に労働者の一時解雇を余儀なくされた。

経営者

我々の意志は挫かれない

スイスは慎重な政策を追求しているおり、この場合、スイスはひとつの勢力にあまり焦点を合わせていないため、輸出遮断壊滅的な影響を与えない。スイスの経済は自立したままであり、どちらの陣営によってもコントロールされない。スイスが経済発展を緩やかに維持している場合、原材料に関しては外国に依存する。エネルギー、食料、労働力を独占的に保有していて、我々を経済的に脅迫できる国はどこにもない。

政府は失業と経済危機に備えている。そして今、政府と雇用主と従業員の一部を犠牲にするときである。いかなる状況においても、雇用主は従業員に対して、国民は政府に対して、スイスはスイスに対して戦うべきではない！スイスは全力を挙げる！

誰もが知っている世界的な経済の推移の結果として、当社は生産を大幅に削減せざるを得ない。失業と闘うための連邦政府の措置が施行されようとしている。関係する労働者と従業員は、適切な時期にどこから仕事を始められるかについて通知される。それまでは、当社のすべての労働者は勤務時間を短縮して勤務を行う。

経営者

敵の計画：
敵は獲物の意志を破壊し始める

1月15日	金属産業および機械産業でストライキ発生。
2月16日	繊維労働者の大集会。
2月18日	繊維労働者のストライキ発生。
5月20日	FFPは、大規模な集会で職とパンを求める労働者の戦いを支援することを約束する。エーリッヒ・キブリンガーは、タラスカン大使館の書記官と頻繁に会う。
6月4日	金属労働組合の指導部が、臨時代表者集会で爆破された。著名なFFP党员が新しい指導部に加わる。
6月10日	金属労働組合は新たなストライキを始める。
8月16日	わが国を去るべき外国人労働者は拒否し、工場を占拠する。警察との戦いが起きる。
9月21日	公共交通機関のストライキ。連邦参事会は、交通を維持するために軍隊を派遣する。一部の鉄道職員は、動員命令に従うことを拒否している。
11月20日	食料は不足し、ますます高騰する。

我々の意志は挫かれない

組合指導者の会見記録より：

ホファーは、現在の状況でどの程度ストライキ権を行使すべきかを質問する。

ズルヒャー書記長は、スイス全土の労働組合委員会によりこの問題は既に詳細に検討されており、その結果、ストライキは現在の状況では適切ではないと、回答した。ストライキは、雇用主と従業員の間で実際の労働と賃金の対立が存在する内部政治的紛争の手段である。しかし、現在の緊急事態は、外交政策要因によって引き起こされておる。ストライキによって国の経済状況を改善できないが、さらに悪化する可能性はある。雇用主と労働者の間の未解決の問題は交渉すべきである。雇用主と従業員の両方が犠牲を払うことが必要不可欠なことだった。FFP党员、さらには外国の工作人員もが、現在の状況を利用してストライキを発生させるために、組合指導部に浸透しようとしたという証拠もあった。労働組合はそのような傾向に非常に厳しき反対しなければならないだろう。労働組合が自国とその経済を弱体化させるために外国勢力によって悪用されることは、あってはならない。

敵の計画： 敵は獲物の意志を破壊し始める

あの超大国のマスコミ、ラジオ、テレビは再びスイスの事件を取り上げている。

スイスが経験している深刻な危機は、主にそこに広がっている政治的および経済的システムの結果である。また、スイスは、新世界への適応と、問題の超大国との緊密な協力がより良い条件を作り出せることを認識しなければならない。前提条件は、もちろん、スイスのマスコミがその扇動を止めることである。

ジェネラルデイリーポスト
取締役会

編集長へ

スイスの現在の状況は、前回の取締役会で詳細に評価された。取締役会は、新聞の編集方針を変更することが適切であると考えている。

定期購読者が減少し続けている事実は別として、我々は未来がどうなるか見えていない。我々の目標は、今日求められているように、新世界で適切な立場を維持することである。スイスが経験している困難をさらに拡大することに意味はない。そのため、今後のコメントには細心の注意を払うこと。

我々の意志は挫かれない

問題の超大国によるプロパガンダの弾幕は、自らを防衛する準備ができていないスイスに対しても衰えることなく続いている。スイスではまた、スイスの最高代表者による演説すら非常に厳しく扱われている。

また、我々は臆病とも戦わなければならない。

そのような政界や財界の影響力のある人々が、連邦参事会に、スイスの報道機関の態度が我々の状況を悪化させるだけであると信じるという声明を送った。いずれ、スイスは問題の超大国と交渉をしなければならない。連邦参事会は、報道に関して適切な措置を講じるよう求められている。

連邦司法警察大臣は記者会見で、連邦参事会は残念ながら公になった「マニフェスト 50」の発効を考えていないと発表した。報道機関は、我々の独立のための闘争の最前線にいる。報道機関による妥協のない姿勢は、抵抗を維持するために不可欠な前提条件である。超大国がわが国を攻撃したければ、報道機関がどのような態度を取ろうとも、攻撃するだろう。しかし、外国に対して、スイス人の抵抗する意志を弱めることはできないということを日々、明示しておくことが重要である。

敵の計画： 国民と政府の間の楔を打ち込む

- アドルフ・
ウェーラーから
エーリッヒ・
キブリングーへ：
1. 最初の段階は完了したと考えられる。これより、2番目の段階に進める。
 2. 目標：国民と政府を分断しなければならない。
 3. 対策：
 - 3.1 連邦政府とカントン政府の最強の人材が集中している。狙った行動を中傷し、彼らを失脚させる。これらの行動は段階的に実行する必要がある。関係者の関係書類を近日中に手配する。
 - 3.2 連邦およびカントンの議会審議は、FFP議員のより攪乱する。不安と混乱の挑発は、議会の評判を弱める。
 - 3.3 言語的マイノリティの間の不満は、意識的に育て、政府に対して使用する。
 - 3.4 スパイ事件の体系的で段階的な噂を通じて、大衆に不信の雰囲気を作り出せる。
 - 3.5 これまでに取った対策を継続する。
 4. これらの目標は2年で達成できるだろう。
 5. 資金は、クリューター銀行を通じて企業送金で送られる。

国民と政府は協力して抵抗する

この状況では、連邦参事会は国民に次のように通告する：

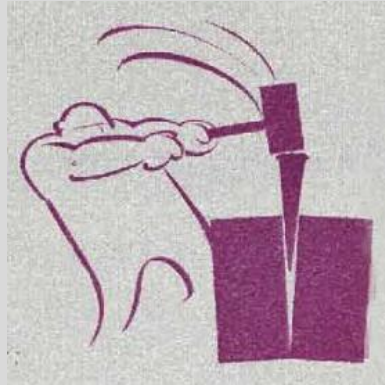
国民の皆さん

連邦参事会は、今日、わが国の運命と未来にとって決定的な時を迎えていることをお知らせする。状況を冷静に評価するなら、わが国は戦争に匹敵する状況にある。我々は宣戦布告されておらず、今後も宣戦布告されることはないだろう。また、敵部隊が制服を着て、大規模で国境線を越えてくる可能性も低い。しかし、最近の出来事は、バラバラの出来事ではなく、自由なわが国を征服しようとする、計画的かつ合理的な行動であることを、明確に認識しなければならない。

連邦参事会は、この攻撃に対して、戦時に必要な厳しさで対処することを決定した。連邦議会は連邦参事会には必要な権限を付与した。不正で偽装されたプロパガンダに惑わされないこと。敵が、相手が、わが国の放送局の波長のラジオやテレビや、別の形で、誤解を招くようなメッセージ、例えば、連邦参事会が外国勢力に譲歩したといったことを出すことを想定しなければならない。我々は、あらゆる方法で、そのような通信および指示は信じてはならないと述べる。

我々は皆さんに寄り添っている。しかし、わが国は、警戒と規律と、皆さんの犠牲と強靭さ捧げる意志を求めている。

敵の計画： 国民と政府の間の楔を打ち込む



エーリッヒ・キブリンガーからアドルフ・ウェーラーへの報告：

私のグループは行動を起こす準備ができている。連邦経済相に対する攻撃の準備はできている。彼は連邦参事会の有力者であり、現在、スイスの状況を大幅に改善できる危機と失業に対する連邦法を準備中である。我々はあらゆる状況下でこの法律を打破する。必要に応じて、FFPは国民投票を使う。

マスコミを黙らせる努力はすでに結果を示している。さまざまな主要日刊紙の編集部や取締役会に目立たないように人を送り込むことに成功している。

私の部下の一人は、連邦議会の重要人物を操作できるようになっている。目的は、連邦議会に対する信頼を揺るがし、明らかに有罪となる資料を通じて国民と政府を分断することである。FFP議員は指導を受けており、傍聴席のシュプレヒコールも訓練されている。

国民と政府は協力して抵抗する

法規定を既に定めているスイスは、もはや新たに立法措置をとる必要はない。すべては、はるか以前に整っている。今や、行動である。参謀本部長が軍を動員する計画と同様に、経済省トップは引き出しから、危機管理と雇用創出計画を取り出せる。連邦議会から連邦参事会に全権委任されているので、阻止が直ちに発効する。

戦いのこの段階では、新聞、ラジオ、テレビが我々の最も重要な武器となる！ しかし、注意してほしい！ 敵がそれらを脅かすことができない場合、敵は浸透を試みる。我々はしっかりと立って、不公正な要素が侵入する試みを阻止する。我々は、敵が発行した新聞を晒し、それらを無視して戦う。そのような新聞を広告で支える人々はボイコットされる。

さらにスパイ事件の発生も、スイスは自衛の準備ができている。それらは冷戦の一部であり、熱戦で爆弾を撃ち落とすものである。重要なことは、それによって我々が動揺しないことだ。これは兵士が擲弾で動揺しないのと同様だ。

敵の計画： 国民と政府の間の楔を打ち込む

1月15日 連邦参事会が嘲笑された
5月18日 連邦議会に「危機法」。25人のFFP議員が際限なく問題を起こし、審議を遅らせる。
5月20日 報道機関は法律の妥当性を問う、
5月25日 路上デモ。秋の議会への「危機法」の審議延期。
9月15日 「危機法」は、最も暴力的な議論の後、議会で僅差で成立。警察は口笛を吹く、傍聴者を傍聴席から排除する
9月30日 「危機法」に反対する国民投票実施。
3月15日 連邦議会の議員の嫌疑をかけられた振る舞いによる信頼危機。
3月16日 報道：「一般的な印象：連邦議会は何か間違っている」
4月29日 FFPはゼネストについて語る。
4月30日 「危機法」が国民投票で否決。
5月1日 連邦議会で辞任。

国民は落ち込んでいる。数ヶ月前に存在していた高揚した気分が失われた。あちこちで、裏切りについて語られる。国民は退屈になり、何が起きているかに無関心になる。

国民と政府は協力して抵抗する

1月15日 全権委任が発効する。危機と失業、国家の安全の維持、高利貸しと価格値上げとパニック買いの防止のための対策が講じられる。
3月3日 FFPによる権力に対するデモは成功しなかった。国民は家にいる。
3月15日 失業者向けの再訓練コースが開始される。
5月20日 望ましくない外国人が国境を越えて強制送還される。
6月21日 すべての大学都市で、学生たちがスイス独立支持のデモを行う。
7月4日 全権委任に対するFFP議会決議案。既に対策が整っており、害を及ぼすことも、審議に遅延をもたらすこともない
9月18日 FFPの集会。
9月19日 国際関係に関する公開集会。
11月9日 スパイ活動の逮捕。外国の大使館から2人の書記官を追放。

抵抗する国民の意志は強い。政府は意図的に行動し、譲歩と見られるのを回避した。これにより、犠牲を払うための、信頼と意志が維持された。

敵の計画：攻撃の準備は整った

スイスの隣国では、侵略的超大国に協力する政党がクーデターで権力を掌握する。この超大国の軍隊が隣国に押し寄せ、スイス国境に出現する。連邦参事会は、経済状況と人心を鑑み、弱小な部隊のみを動員する。超大国が望む国境での偶発事件が発生する。侵略的超大国の国家元首は、厳しい覚書で、国境の部隊の動員解除を要求する。スイスは従う。

超大国の革命本部では、スイスでの進展が詳細に追跡される。スイスが覚書を受け入れ、躊躇いがちに、弱腰に反応したという事実から、暴力行為を成功裏に引き起こす条件は今や満たされたと正しく結論付けられる。ウーラーは次の指令を受け取る。

革命的状況が創られた

政府はあえて行動しない

テロ段階を発動させる

我々は自らを守る準備ができている

敵の計画で想定されているすべてを阻止するのは我々次第である。革命戦争の訓練後に、革命的状況が確立された場合にのみ、暴力行為を発動できる。これが起きるか否かは、敵の力ではなく、我々のみかかっている。国内が強固に団結している限り、小国を革命戦争という手段では攻撃できない。

スイスは隣国の転覆に神経質にならず、迅速かつ着実に反応する。軍の動員が発令される。厳格な規律により、国境での偶発事件は阻止される。連邦参事会は、超大国の元首からの覚書を丁寧かつ確固として拒否する。

革命本部では、状況が評価され、ウーラーに次のように命じる。

革命的状況は創られていない

テロ段階を発動させるな

ただちに

本部に還れ

敵の計画：敵は暴力を使う

破壊工作が長く続く。爆弾攻撃が、産業プラントや倉庫や軍事施設や弾薬倉庫や送電鉄塔や鉄道に対して行われる。

鉄道が脱線する

殺人が起きるが、犯人は見つからない。スパイ事件が大量に起きる。誰が信頼してよいか、誰にもわからない。

い。え、思えな
こいこと
敵は至るこ

警察は市民に信頼されておらず、その任務を果たせない。

しばらくすると、敵は、足場と武装組織という「基盤」の確保に成功する。

報復を恐れて、人々は口を閉ざし、テロリストに同調するようになる。

後に、テロリストが「自由の戦士」でないことが明らかになった。テロリストたちは数年間にわたり国外で訓練を受けていた。一部は、自由の戦士として報道された。彼らはパルチザンとして組織され、昼間に仕事をして、夜間に攻撃に参加した。

この混乱の中で、スイスの経済状況は次第に絶望的になり、そして外交政策の圧力は高まっている。

このようにして、スイス人の抵抗の意志はついに失われた。スイスは平和と安全を切望しているだけになる。スイスは自由の代価を払おうとする。

我々は叩き潰す

スイス政府は、彼らの背後に国家と軍隊があることを知って、最大限の決意をもって行動する。動員により、連邦議会は反逆罪とクーデター未遂事件に戒厳令を適用することを決定した。

エーリッヒ・キ布林ガーと他の多くの地下運動指導者が突然逮捕された。大規模な警察作戦は、武器、爆発物、制服、無線機、作戦計画、準備された命令、リーフレット、その他の犯罪資料を押収する。

国内外の大衆を緊張状態にする裁判で、エーリッヒ・キ布林ガーと5人の被告は軍事機密を侵害したとして死刑判決を受けた。彼らの減刑嘆願は、連邦議会によって却下された。被告の支持者たちは散り散りになる。国民のいるところでは支援も隠れる場所も得られず、警察に通報される。数百人の不審な外国人が国外へ強制送還された。

敵の計画：敵はスイスを包囲する

本部からウーラーへの命令：

「進歩平和党は2つのカントンで政権を握っている。この状況を利用し、ただちに連邦政府とこれらの州の対立を引き起こす。我々はこれらの州の自治権を要求する。エーリッヒ・キブリンガーは海外に亡命政府を結成し、所定期間内に連邦政府を追放する。2つの州が亡命政府に加わることで、連邦政府による軍事介入を引き起こす。我々は、国際機関でスイスの攻撃性を訴え、国際レベルでスイスを悪者にする。これで我々が行動を起こしたとき、第三勢力の介入を抑止する。我々はこれを、通告と核実験や経済圧力など、硬軟取り混ぜて支援する。」

敵の報道からの抜粋：

スイスの少数民族の弾圧

連邦軍が2つの州に侵攻

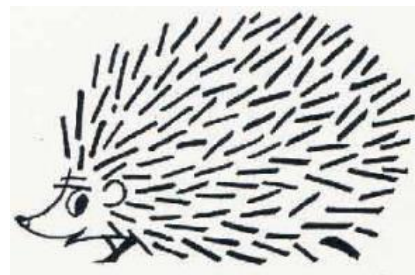
スイス亡命政府のイラスト

我々はハリネズミとなる

我々は平和攻勢に幻想を抱かない。この種の戦争の一つの武器が、崩壊させたい国を友好国から切り離すことであることを、我々は知っている。脅迫と恫喝あるいは、交渉と和平の申し出によって、友好国が、わが国の危急の時に立ち上がらないようにする。

我々はこれに備え、国外からの支援を受けることなく政治的圧力をかけられたときに、生き延びる準備をしている。我々の外交政策は絶対中立である。我々は防衛を自ら行い、友好国に頼らない。

敵が武力紛争を回避しようとして、そのような手段を使うことを我々は知っている。我々は国内で団結し、国内で敵対することなく、国外からの支援がなくとも、必要とあれば、我々は戦うということに、外国からの疑いを抱かせない。このようにして、我々は均衡勢力に行動をらせて、敵が世界的紛争のリスクを取りたくなければ、圧力を解放するよう強要する。



敵の計画：首に縄をつける



この状況下で、連邦大統領は敵の国家元首の本部への招待に従った。敵の支配者は、抵抗が無意味であることを連邦大統領に受け入れさせた。スイスは内戦の瀬戸際にあり、海外からの支援は期待できなかった。敵の国家元首は、スイスとの平和と友好を望むが、次の条件を遵守しなければならないと告げた。

連邦政府に異議を唱えるカントンの
自治権の保証

軍の撤退と動員解除

亡命政府との交渉の開始。

スイスはこれらの条件を承諾できなかった。敵の国家元首は、連邦大統領に、現在のスイス国境線の軍の配置図を見せた。彼皮肉なことに、この場合、あらゆる手段でスイス国内の少数民族の権利を考慮することになると告げた。連邦大統領は、失意のうちにスイスへ帰国した。翌日、スイスの敵である大国の大使は、連邦議会が最後通牒を受諾したことを知らされた。

外国は息をひそめていた。彼の報道機関は、世界平和がスイスの犠牲によって救われたと報道した。

我々は外国からの指示を受けない

スイス連邦憲法

第2条 連邦政府の目的

外国に対する独立の確保

国内の安寧と秩序の維持

国民の自由と権利の擁護と共同福祉の促進

連邦憲法は我が国民と政府に方向性と目標を規定している。義務は明確である、スイスは自らの自由のために戦う。支援を受けようが、受けまいが、我々の義務と方向性は変わらない。

我々は指示を受けるために外国へ行かない

敵の計画：終焉

平和は欺瞞である。スイスの軟弱が敵の要求を増出させる。軍の動員解除が国民の気分を消沈させる。裏切りを話す者がいる。連邦大統領が辞任し、連邦参事会のエーリッヒ・キブリンガーの恫喝のもとで、連邦議会が議決を行う。キブリンガーは連邦国防省に圧力をかけ、動員準備を解体して、軍を完全に麻痺させる。

ある朝、スイス国民は、国営放送が、エーリッヒ・キブリンガーが国家元首に就任したと告げられる。連邦参事や多くの人々が、「自由部隊」のメンバーたちによって、自宅で真夜中過ぎに逮捕される。制服を着た「自由部隊」がブンデスプラッツを行進するのを、スイス国民は驚愕して眺める。抵抗する者はいない。数日後、エーリッヒ・キブリンガーに絶対的な権力を与える新憲法が発効する。

陰謀があるとの口実で、エーリッヒ・キブリンガーは自分の政府を守るために超大国の軍事介入を求める。国境が開かれる。戦車が国境線を越えて、なだれ込んでくる。マスコミは、侵入してきた軍隊に、国民が歓呼の声を挙げているという偽の写真を掲載する。

それからずっと後になって、スイス国民は、決定的なあの夜に行進した「自由部隊」が数千人を超えない規模だったことを知る。

スイスはまだ自由である

我々は団結しており、強力である

我々は連邦参事たちに任期満了まで職責を全うするように信任を与える。海外で見られるような、国民の信頼への揺さぶったり、効果的な政府を国から奪うような、政府危機はスイスには存在しない。弱体化の起点は遥かに小さい。

我々は政治的能力が高く、回復力のある国民である。誰もが自宅に武器と弾薬を持っている。

裏切り者が起こす最大規模の混乱があっても、軍の動員が妨げられることはない。弾薬と物資倉庫は分散している。敵には、そのすべてを同時に制圧する力はない。クーデターは不可能である。

我々はあらゆる状況下で戦う。

我々にあるのは連邦政府だけではない。責任を持って行動する、25の州政府と多数の自治体がある。しかし、我々が強力であり続けたいなら、我々は今こそ、第2形態の戦争がいかなるものか認識しなければならない。

今日、我々は、既にこれらの危険に直面している。

それに対処すべく、政治において、そして日常生活において、我々の行動を考えよう。

敵の計画に従ってスイスが屈服させられていたら、今や長期にわたりスイスは外国の支配下に置かれているだろう。おそらく、屈服すれば、我々は戦争から免れることすらできず、既にそうであったように、スイスは外国の軍隊間の衝突の戦場となるだろう。スイス国民は戦争の攻撃に対して脆弱になるだろう。スイスは、最初の不注意と、後の自己満足と優柔不断を、ひどく後悔することになる、国外からの解放や、その後の抵抗や蜂起の成功の見込みはごくわずかである。脆弱な国民は、自らの行動により、敵と世界からの敬意を失い、新たな独立を望めない。

しかし、スイスが第二戦争形態で強いままであれば、独立を維持できる可能性が最も高くなる。それにもかかわらず、軍事戦闘でスイスが屈服を強要された場合、スイスはその防衛を単独で実行するか否かにかかわらず、使えるあらゆる手段で戦うだろう。我々は国土の一部あるいは大部分が、一時的に敵に占領されることを想定しなければならない。しかし、これが起こる前に、わが国民は、利益に関連して、敵に最も多くの労働力と物資を犠牲にさせる戦いを行う。飛行場、道路、鉄道、工場、その他の重要な施設は使用できなくなる。敵はどこでも抵抗を受ける。わが国への侵入には多大なコストがかかると言われる。戦争の推移によって国が解放されるまで、限定された領域ではハリネズミの立場を取り、分散された拠点で抵抗し、軍隊の一部は持ちこたえる。